

第3回南あわじ市総合計画審議会

日 時：令和8年6月29日（月）午後2時30分～
場 所：南あわじ市役所 第2別館2階 第5会議室



次 第

1. 開会・あいさつ

2. 報 告

- ① 市民WS・高校生WSの意見
- ② 人口ビジョン（案）

3. 協 議

基本構想（案）

4. その他

第2次総合計画進捗評価
今後について

<資料>

- ・ 市民WS、高校生WSの報告書
- ・ 人口ビジョン（案）
- ・ 基本構想（案）
- ・ 第2次総合計画進捗評価

前回まで

開催時期	審議会	議事テーマ概要
令和 8 年 1 月 2 0 日	第1回	◇委嘱・諮問 ◇第 3 次総合計画の策定について ◇南あわじ市の人口動向について ◇市民アンケート結果報告 ◇今後の審議会スケジュール
令和 8 年 3 月 1 9 日	第2回	◇将来人口の展望 ◇市民アンケート結果分析、小中高生アンケート分析、第 1 回市民WS報告 ◇目指すべき将来像（案）について
令和 8 年 6 月 2 9 日	第3回	◇第 2 回市民WS報告・高校生WS報告 ◇人口ビジョン（案） ◇第 3 次総合計画基本構想（案）
令和 8 年 9 or 1 0 月頃	第4回	◇第 3 次総合計画基本計画（素案）について
令和 8 年 1 1 月頃	第5回	◇第 3 次総合計画基本計画（案）について ◇パブリックコメントの実施について
令和 8 年 1 2 月	パブリックコメント実施	
令和 9 年 1 月頃	第6回	◇パブリックコメント結果報告 ◇第 3 次総合計画（最終案）について ◇答申

2. 報告 ①市民WS・高校生WSの意見

2. 報 告 ①市民WSの意見

●市民ワークショップ

○第1回 ワークショップ

令和8年2月7日（土） 14:00～16:00

「自慢したくなる南あわじ市、10年後の姿をイメージしてみよう」をテーマに**将来像**を出し合いました。
(第2回審議会資料参照)

○第2回 ワークショップ

令和8年4月25日（土） 14:00～16:00

将来像に向けてどのような取組みが必要かの**アイデア**を出しました。



超高齢社会の克服

将来像：人と交流し、孤独を防ぐことができる

理 由：高齢者と若者が同居し、孤独死、淋しさの緩和と世話をする生きがい。

若者の文化、歴史を学び、市を愛する心を養う

取 組：・高齢者の所有する空き室を例えばシェアハウスに耐震改修する

・高齢者と若者の共生により生きがい、安心、地域文化を次世代に継承するため

将来像：超高齢社会に対応した安心の仕組みがある

理 由：各家庭、地域の人が支えやすくなる

取 組：・人数確認（地域内の高齢者の人数、独居高齢者の人数、子どもの人数）地域で共有。

・この情報が犯罪に利用されない工夫 → 現状把握に活用

・タブレットで毎朝安否確認 → 見守り

将来像：困ったときに地域で助け合える

理 由：・地域内交流によって、地域愛が強まる！！

・日々のちょっとした交流コミュニケーション = 「いざ」という時の支え合い

取 組：・ウォーキングサークル、お茶会サークルなど、誰でも(年齢に関係なく)参加できる場がある

→ 年齢があがるから交流が必要でなく、住みよい＝地域その土地にいたいと思うから⇒地域愛

・地域を見直し、良い点、気になる点を認識する

→ 住んでいる町の歌を作りみんなで心を一つにする

・困った時に助けを求めることができる仕組みづくり（お金は発生しないがバイトのアプリの仕組み）

→ 地域内交流の活性化につながる

・地域愛育成につながる

2. 報 告 ①市民WSの意見

子育て環境の向上と教育の充実

将来像：学び方・制度・教育機会が充実している

理 由：次世代を担う若者を学生時から育てて、地域に定着してもらう

取 組：・行政の留学生支援。高等教育を経済的に支援する仕組みを作る。

例)大学の地域枠（医学、農学、教育） → 島外から優秀な若者を呼び込むため

将来像：人のつながり・地域との関係性の深化がなされている

理 由：・学生とつながる⇒関係人口UP

・Uターンしていなくても！

・将来像具体化

・関係人口の増加 まつり、町づくりのための関わり

取 組：・まちの先生オンライン。先生は地元学生だけでなく18歳以上すべての大人！

→ 人それぞれにドラマチックな人生がある。

“このまま” “これしかない”ではなく、こんな道もあるんだ！というキャリア教育になるから

・「大学生と交流しよう」イベントの開催(長期休暇等) 宿題をする場、一緒に遊ぶ

・今学んでいることの話をする等、アフタースクールの長期休暇バージョンを想定

→ 進学した学生と関わることで、自身の将来を想像することにつながる

・大学生にとっても地域に戻ってくるきっかけになる

・市歌を作る

→ 市民の絆を深め誇りある町として心に残るようにしたい

2. 報 告 ①市民WSの意見

子育て環境の向上と教育の充実

将来像：学び方・制度・教育機会が充実している

学校外学習・文化資源の活用・体験型教育が充実している

理 由：・しくみやメニューの整理・情報提供体制ができる。

・児童、生徒の安心、かなえたい自分像が描けるようになる（保護者も）

取 組：・スーパー指導者のヘッドハンティング制度を市をあげて構築する

→ スポーツや文化など優れた指導者に学ぶ事が子育ての満足度につながり市外からの移住、島留学にもつながるから

・指導者の掘り起こし

・データ活用

・DXの活用

・複数の体験（成功）

→ 学ぶ楽しさ日本一のまちが実現できる

・どこにいても好きなタイミングで学び大変できる

・体験機会に各家庭や団体などに補助を出す。

・1か月5,000円子ども1人あたり習いごとやホンモノに触れる機会に補助金をだす。

→ そういう制度があるなら、せっかくなら使おうとモチベートされることに期待。

2. 報 告 ①市民WSの意見

子育て環境の向上と教育の充実

将来像：学校外学習・文化資源の活用・体験型教育が充実している

理 由：スポーツによる体験型教育、人材交流を通じて地域の活性化を図る。

取 組：スポーツ部活動が地域に移行するなかで、サッカー、バスケ、陸上などで部活動機能の維持とプロスポーツ育成までつながる地域クラブをつくり、全国から有望中高生選手が集まる（合宿、移住）中高生のスポーツメッカにする。そのためには、スポーツ公園、廃校のグラウンド・体育館・プールを活用して、引退した有名選手やコーチを招聘してハイレベルな選手を育成し、将来的には全国レベルのスポーツアカデミーエリアをつくる。まずは、例えばサッカーであれば、Ｊリーグ下部組織のブランチとして出発する。

①南あわじ市の遊休施設やグラウンドなどスポーツ活動空間の存在

②京阪神からの近接性によるスポーツ交流のための優位な立地条件を活かす。

そのためには、行政と民間スポーツ関連企業が連携し選手育成プログラムをつくり、プログラムは指導者や学生が利用し、当面は部活動の地域移行に役立てる。

希望者が増加していけば、宿泊・定住のために空き家活用はじめ既存ストックの改修や新增設を行い地域の経済活性化のつなげる。

将来像：人のつながり・地域との関係性の深化がなされている

理 由：島内にいる小中学生たち、不登校学生などにとって、選択肢の視野が広がるから

取 組：・進学した大学生との交流の場

・南あわじ市の良さを実際に実感している大学生との関わりが、今の小中高生にとっても良い場

2. 報 告 ①市民WSの意見

地域の資源を活かした地元産業の活性化

将来像：商業・サービス・観光拠点の活性化がなされている

理 由：全国の歴史・観光拠点と連携する

取 組：・VRを使って出雲大社・伊勢神宮とおのころ島神社を連携するソフトを作る
例) ポケモンGOの古事記版 (RPG対戦)
・南あわじ市観光全国発信！ソフトで児童の歴史学習等！
・ゲームを導入口に！

将来像：芸術文化が充実している

理 由：伝統文化についての産業力の活性化。保存・維持ではなく産業として捉える

取 組：・伝統文化産業の新しい取組への支援
→ 現状の伝統文化を成長させる
・広報・イベント
→ 教育的に考えてしまうとボランティアと考えられがち。
→ あわじ瓦のオカリナ等、あわじ瓦の建築等も産業につながる

将来像：地域資源のブランド化・食・観光産業の強化がなされている

理 由：海産物や農作物が豊富で「美食の街」を特化できる

取 組：・食のブランド化
・PR活動
→ 普通に作って食べている商品も情報発信方法で一級品になる

2. 報 告 ①市民WSの意見

地域の資源を活かした地元産業の活性化

将来像：自立型・循環型社会が追求されている

理 由：・市のコンパクトさが強みになる

- ・都市から近く、観光地として、豊かな自然は強み。（レッドデータの植物などが自生している）
- ・食糧危機などに対応できる自立型の経済をめざす
- ・地域内でさまざまな資源が循環する仕組みができる
- ・災害時にその他の有事の際に自主あるいは持ちこたえられるまちになるから

取 組：・災害時、非常時に地元の食料・商品を住民に提供できるネットワークの構築

- 非常食や防災食など特別に用意せず、日常の食料品・商品を非常時に活用できるほうが有効
- ・住民、企業あらゆる事業者の自給率への意識を高める
 - 自給率があがる地産地消の仕組みがすすむから
- ・阪神間、四国圏などとの商圈域を広げる
 - 流通や関係人口の増加につながるから
- ・小～高校まで一貫した環境教育プログラムを作成、実施する
 - 地域を知ることが郷土愛の醸成にもつながる
- ・企業や個人など事業として開発を行う際の環境に配慮するルール作りを市として行い義務付ける
 - 意識もない中なのでルールが義務付けられることで守りやすくなる

2. 報 告 ①市民WSの意見

安全・安心のまちづくり

将来像：生活の利便性が高くなっている

理 由：年齢に関係なく安心安全で便利な生活

取 組：・一家に一台タブレットを配布する

→ 年配の方の安否確認

・回覧板のデジタル化

・遠隔医療が可能

将来像：見守り・防犯・防災の体制が充実している

理 由：なし

取 組：・見守り活動をする事がお得になる仕組みづくり

→ 一部のボランティアががんばるのではなく住民みんなで見守り活動ができる仕組みが大切

2. 報 告 ①市民WSの意見

「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

将来像：地域におけるコミュニティ力がある

理 由：・ 4軒に1軒が空き家である
・ 移住者等にマッチング

取 組：・ 「空き家バンク」の登録件数の増加と利用しやすさ → 空き家の活用
・ 人口増加
・ 空き家のリフォームで瓦の利用で町なみ作り

将来像：市民参加とまちづくりへの主体的参画がなされている

理 由：関わりのきっかけ、戻ってくるきっかけになる！

取 組：・ まちの先生オンラインをタイミー的な方法で募集する
→ 大学生も小中高生もwin win
・ 話せる＝助けになる
・ 話が聞ける将来像見える

将来像：行政の広報力

理 由：知っていれば行った・利用したをゼロに！！

取 組：・ 補助金やイベントをすべてチラシ化してみられるように
→ プッシュ型広報の実現
・ 地域の発信者と行政の発信がコラボレーションして相互に情報発信ができる環境

2. 報 告 ①高校生WSの意見

●高校生ワークショップ

令和8年5月8日（金） 14:20～15:30

◎テーマ

自分たちが **大人になってからも『住みたい!』**と思える南あわじ市 ってどんな“まち”？

◎内 容

- ・なぜ、そのような“まち”にしたいのか？
- ・そのような“まち”にするためには、**どのような取組み**が必要か？ その理由は？
- ・市の将来を見据えた、高校生ならではのアイデア



2. 報 告 ①高校生WSの意見

子育て環境の向上と教育の充実

将来像：子どもが多い町

理 由：町が元気になるから

取 組：・行政が魅力を発信する → 人を多くするため
・行政が補助金を出す → 市民が子育てをしたくなるから

将来像：子どもが多い町

理 由：・担い手が少ないから
・今、子どもが少なくなっているから

取 組：・行政が保険を手厚くしてほしい
→ 子育てがしやすくなるから
・みんなが南あわじにきてもらえるようにアピールする
→ 若い人が増えたら子どもも増えると思うから

地域の資源を活かした地元産業の活性化

将来像：観光客が多く来る町

理 由：・町、市民が観光スポットをつくる
→ 行政だけに頼らない
・市民が観光地に行く
→ 知らないと教えられないから

将来像：食べ物がおいしい

理 由：生活の質が上がる

取 組：・市民が南あわじ市の食べ物を食べる
→ 生産者にお金が入る
・行政が補助金を出す
→ 重要な産業として守っていくため

2. 報 告

①高校生WSの意見

安全・安心のまちづくり

将来像：交通機関を使いやすくする

理 由：移動が楽になるから

取 組：・行政がバスの本数を増やす
→ ド田舎にはこないから
・市民がもっとバスを利用
→ バス会社も儲かるから

将来像：地元民が住みやすい町

理 由：・観光客が増えたから
・島外に行く人が増えたから

取 組：・行政が地元民特権のサービスを作る
→ 観光客だけでなく地元民にもメリット
・市民が地域の人と仲良くする
→ 助け合えるから
・行政がお店を増やす
→ お店が少ないから
・行政が南あわじ市の魅力を発信する
→ 人が増えるから
・行政が保険を手厚くする
→ 子育てをしやすくするため

将来像：交通機関が整備されたまち

理 由：・移動が不便だから
・事故が多くて危ないから

取 組：・行政が道路を整備
→ 道が狭くて危ないから
・市民が交通意識をもつ
→ 危険な運転をさけ、事故を防ぐため

将来像：公共交通機関が整っている町

理 由：・料金が安いから
・移動が不便だから

取 組：・行政が支援する
→ 料金が下がらないから

将来像：地元民が安心して暮らせる街

理 由：・南あわじ市にも観光客が増えてきて
道の渋滞や観光客ばかりでカフェに
行くことができないなどが発生。

取 組：・市民だけのサービスを作る

2. 報 告

①高校生WSの意見

「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり・その他

将来像：ごみが捨てられていない町

理 由：川にゴミが多く汚いから

取 組：・市民がボランティアでゴミを拾う
→ 自分達の町は自分達できれいにすべきだから

将来像：自然が豊か

理 由：・空気が良いから

取 組：・市民がゴミ拾いをする
→ 自然を守るため
・行政が自然を保護する
→ 景観を守るため

将来像：人との繋がりを大切にしているととても暖かい町

理 由：・今の時代、スマホなどもありコミュニケーションが苦手な人も多いイメージがあり、南あわじ市はどこへ行っても挨拶をしてくれたり話しかけてくれたりする人が多く、それがこれからも続いてほしいなと思ったから

取 組：・行政、市民みんながイベントや交流がある機会を大事にする
・町の人達で何かをしたりする事は信頼関係を生むのに1番ベストなことだと思います。私たち高校生も日頃から、一人で何かをするのではなくみんなで考えたり、何かを作ったりして新たな関係が生まれることが多いです。
なので町全体でそういった取り組みをしたらよりよい町になるのではと思いました。

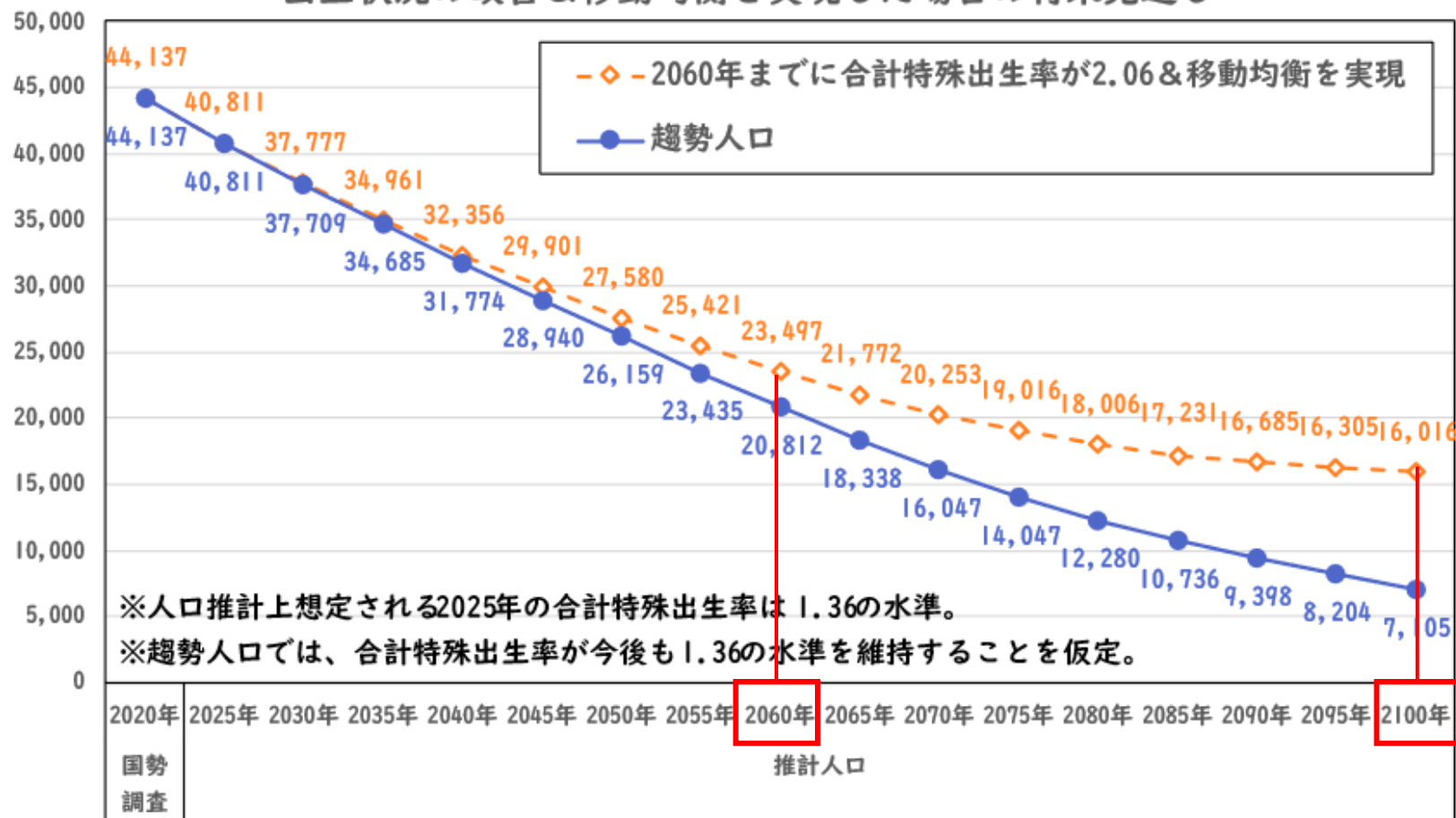
2. 報告 ①人口ビジョン

将来人口の見通し(出生改善&移動均衡)

第2回審議会資料 (3/19)

- 2060年までに合計特殊出生率2.06と移動均衡を実現すると、2060年で約23,000人、2100年以降は16,000人程度の人口規模を維持。

出生状況の改善&移動均衡を実現した場合の将来見通し



合計特殊出生率2.06は人口規模維持の理論値

人口ビジョン P.19 (2) 将来人口シミュレーション

①将来人口シミュレーションにおける仮定

人口減少抑制に向けた将来人口シミュレーション

◇人口減少を抑制するためには、人口減少の最大要因である死亡者数の減少を図りたいところですが、将来人口の見通し（趨勢人口）においては将来的な長寿命化等も織り込み済みであり、人口構造の高齢化が進んだ中で、死亡者数の大幅な減少を仮定することは現実的ではありません。

◇したがって、人口減少の抑制策としては、出生状況の改善と移動状況の改善の2つの視点から考える必要があります。

◇加えて、シミュレーションの結果については、総人口といった人口規模だけではなく、例えば、経済活力創出の担い手とも言える生産年齢人口の比率など、年齢構造の変化にも着目することも重要になります。

出生状況の改善 と 移動状況の改善 の条件設定

➤ 出生状況

合計特殊出生率 **2.06**（人口規模維持の理論値）を条件として良いのか？

➤ 移動状況

全年齢層で移動均衡（±0）は実態と合致しているのか？

➤ 50年後よりも10年後、20年後の中期的な視点が必要では？

全国（実績）

	令和6年 (2024) 概数	令和5年 (2023) 確定数
合計特殊出生率	1.15	1.20

令和7年度
国調速報値
1.14

関西（実績）

	令和6年度	令和5年度
京都	1.05	1.11
大阪	1.14	1.19
兵庫	1.23	1.29
奈良	1.19	1.21
和歌山	1.24	1.33

※沖縄（全国1位） R6：1.54 R5：1.60

（出典）厚生労働省 令和6年(2024)人口動態統計月報年計(概数)の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai24/dl/gaikyouR6.pdf>

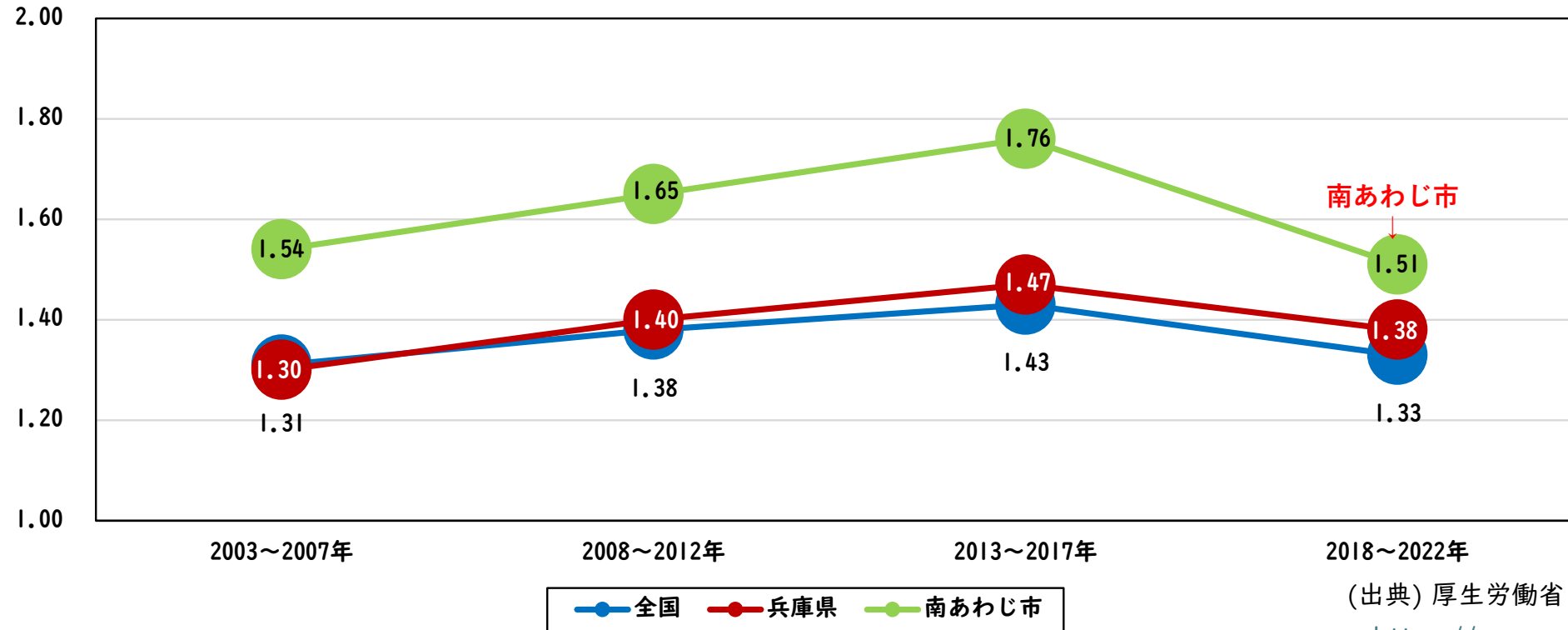
他市の人口ビジョン（参考）

合計特殊出生率の目標設定は自治体で様々

自治体	計画策定年度	合計特殊出生率	目標年度（期間）	備考
明石市	2026年	1.8	2030年	
		2.07	2040年～2060年	
兵庫県	2025年	1.27	2024年～2029年	※1.27を維持
鳴門市	2025年	1.4	2040年	※2.07に定めることは難しい
東かがわ市	2025年	1.8	2030年	
		2.07	2040年	
宝塚市	2024年	1.83	2040年	
		2	2060年	
洲本市	2023年	(人口27,000人)	2060年	※合計特殊出生率の記載なし
淡路市	2020年	2.1	2020年	
西宮市	2019年	1.6		

南あわじ市（実績）

合計特殊出生率の推移



市区町	昭和60年 1985年	平成2年 1990年	平成7年 1995年	平成12年 2000年	平成17年 2005年	平成22年 2010年	平成27年 2015年	令和2年 2020年
南あわじ市	2.14	1.88	1.72	1.51	1.51	1.71	1.83	1.70

目指す率

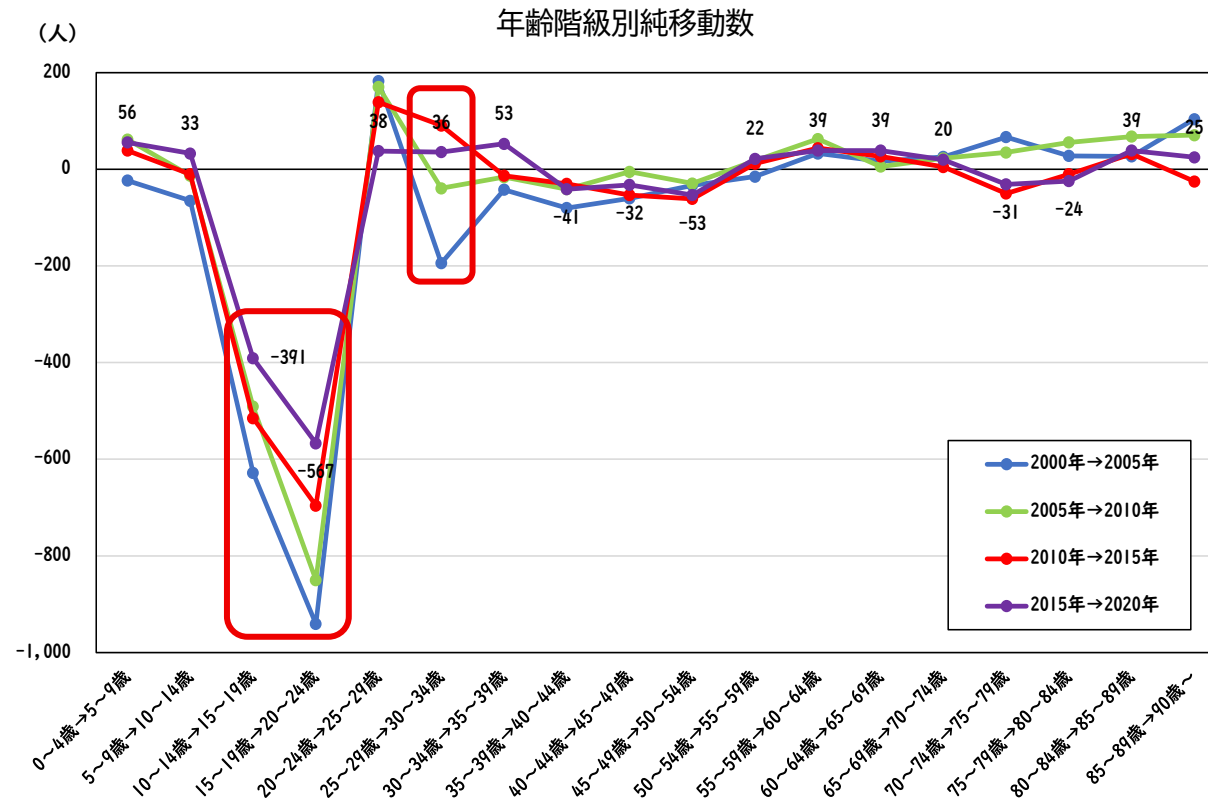
(出典)兵庫県 保険統計年報
https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf02/hw07_000000009.html

※国勢調査結果及び人口動態統計調査結果に基づき算出

南あわじ市に合った条件を設定

※移動均衡…転出転入±0

- ・10代後半～20代前半は進学・就職等による転出超過（現状のまま）
- ・20代後半～75歳以上で転入超過により移動均衡を達成
- ・上記の転入超過は20代後半～40代後半の女性全体で『+5人／年』を盛り込み推計



※純移動数＝転入－転出

出典：内閣府「RESAS」

2. 報告 ①人口ビジョン シミュレーション

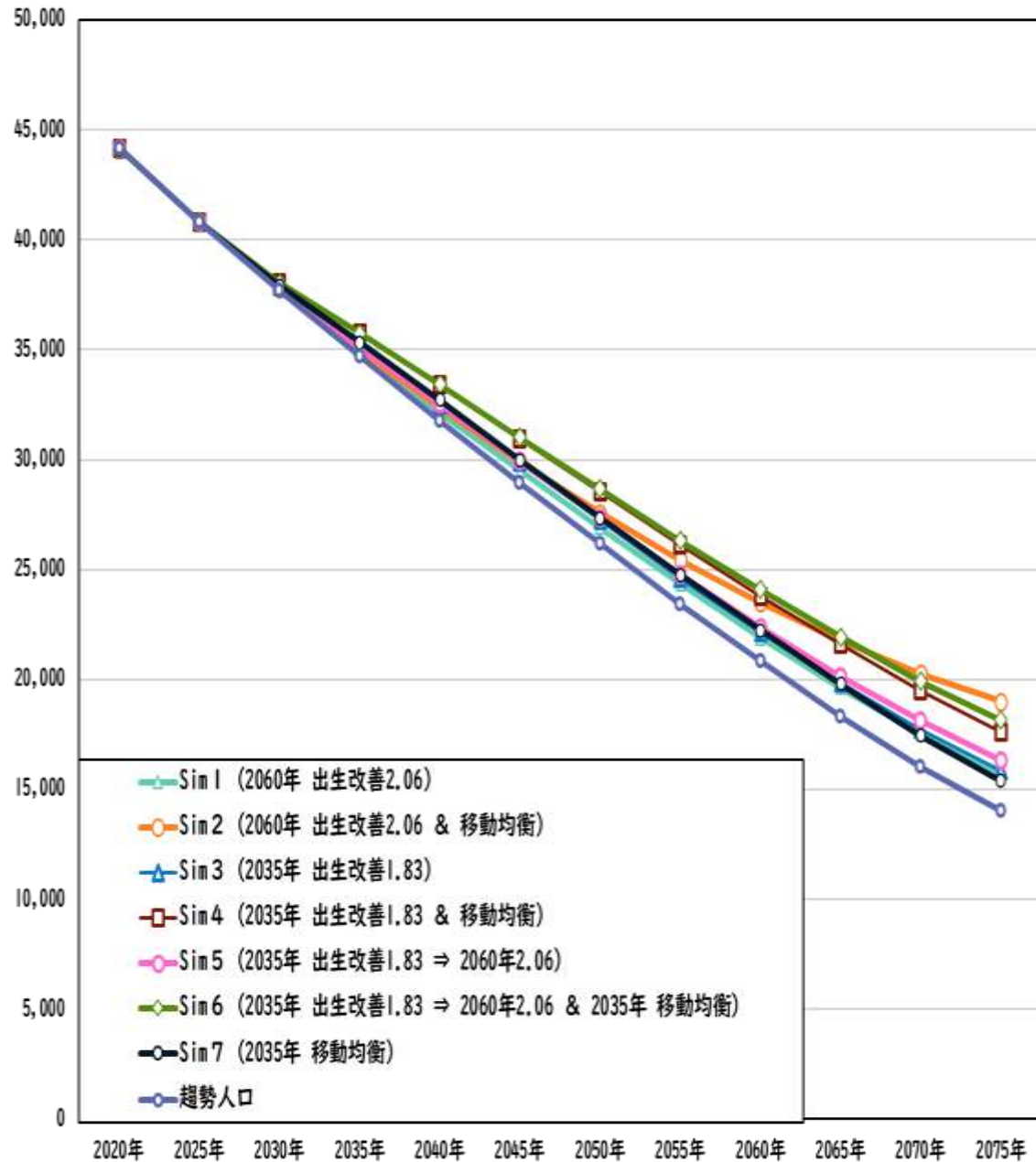
人口ビジョン P.19 (2) 将来人口シミュレーション

※移動均衡…転出転入±0

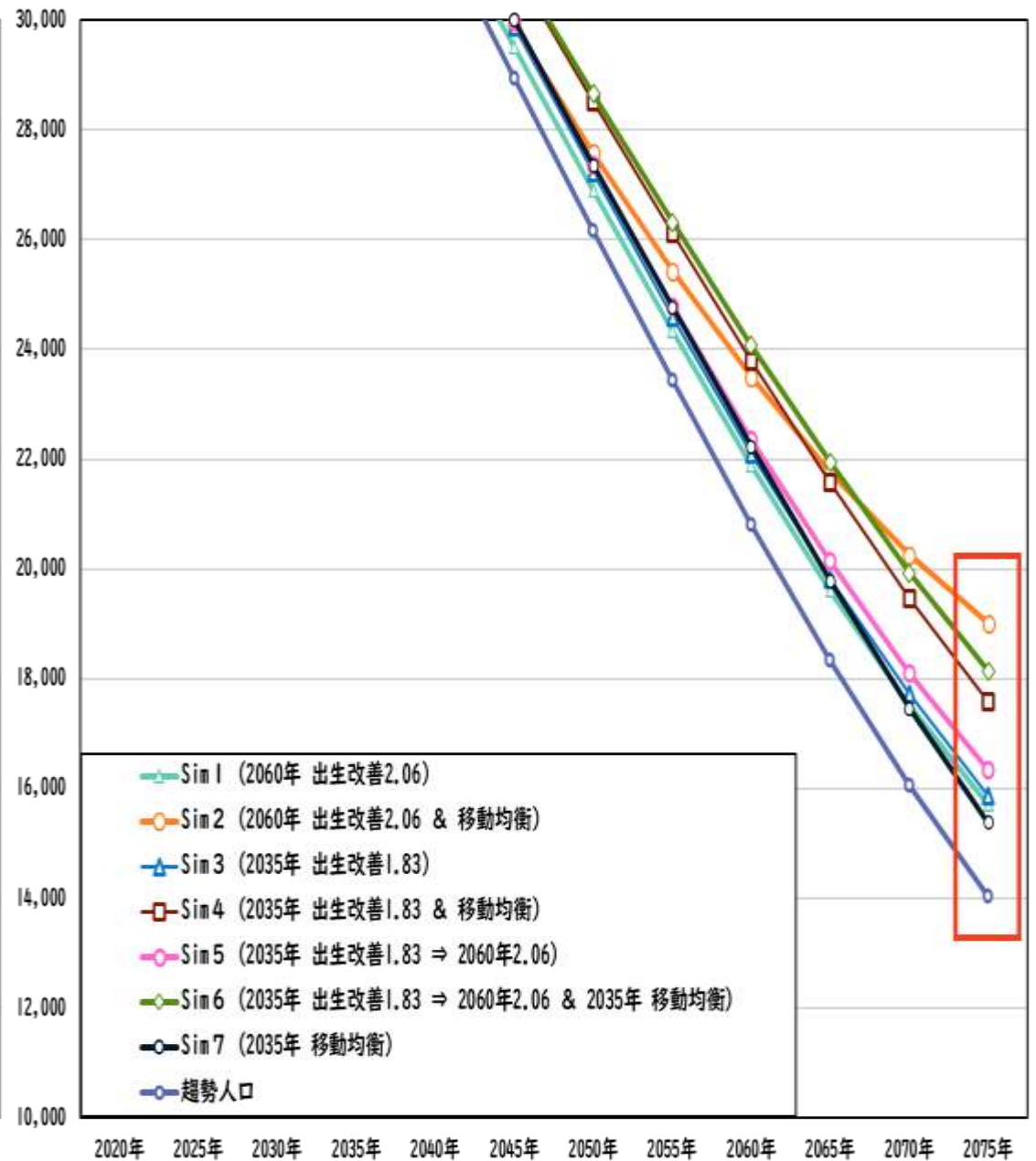
シミュレーションパターン	条件		
	出生	死亡	移動
Sim 1	2060年までに合計特殊出生率が2.06にまで改善	趨勢人口と同じ仮定	趨勢人口と同じ仮定
Sim 2	2060年までに合計特殊出生率が2.06にまで改善	趨勢人口と同じ仮定	2060年までに移動均衡
Sim 3	2035年までに合計特殊出生率が1.83にまで改善	趨勢人口と同じ仮定	趨勢人口と同じ仮定
Sim 4	2035年までに合計特殊出生率が1.83にまで改善。その後維持。	趨勢人口と同じ仮定	2035年までに移動均衡
Sim 5	2035年までに合計特殊出生率が1.83にまで改善 その後2060年に2.06にまで改善	趨勢人口と同じ仮定	趨勢人口と同じ仮定
Sim 6	2035年までに合計特殊出生率が1.83にまで改善 その後2060年に2.06にまで改善	趨勢人口と同じ仮定	2035年までに移動均衡
Sim 7	趨勢人口と同じ仮定	趨勢人口と同じ仮定	2035年までに移動均衡
趨勢人口	2020（令和2）年～2025（令和7）年における人口動態から整合的に算出される合計特殊出生率1.36が今後も維持継続	社人研の生残率仮定値を採用	兵庫県公表の推計人口に基づく2025（令和7）年の南あわじ市人口40,811人を踏まえて、社人研の純移動率仮定値を補正

- 出生状況：合計特殊出生率 2.06達成、1.83達成後維持、1.83達成後2.06
- 移動状況：移動均衡は達成（全年齢層で移動均衡 か 若年層の転出超過、それ以上で転入超過）

将来人口シミュレーション結果



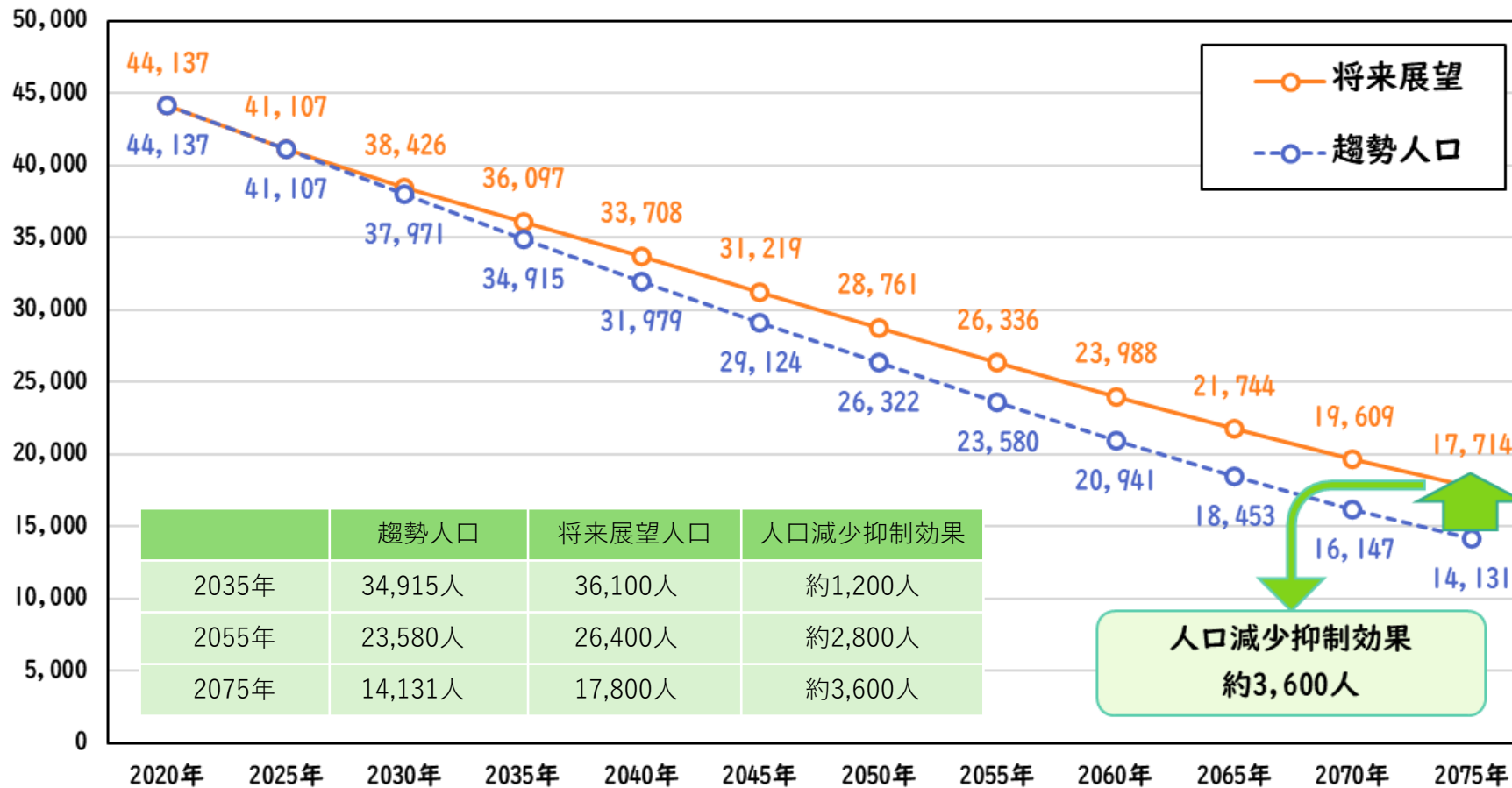
将来人口シミュレーション結果 (2075年拡大)



②
⑥
④
⑤
③
①
⑦
趨勢人口

2. 報告 ①人口ビジョン 将来展望

人口ビジョン P.44 (3) 将来展望



- I. 合計特殊出生率を2035年までに1.83まで上昇させ、その後維持
- II. 2035年までに移動均衡を達成
- III. 生産年齢人口と20代～40代の女性人口の増

3. 議題 基本構想（案）

3. 協議 基本構想（案） 構成について

第1章 南あわじ市の将来像

第2章 将来人口の展望

第3章 将来像実現に向けた基本政策

第4章 基本政策に基づくまちづくり設計図

第1章 南あわじ市の将来像

子ども・若者

市民アンケート
市民ワークショップ
高校生ワークショップ

- ・自然や美味しい食べ物が好き
- ・南あわじ市が大好き
- ・地域の人の優しさ
- ・地元の祭や地域の担い手
- ・商業、観光業の発展
- ・文化、スポーツが活発
- ・育った地域に戻りたい
- ・地元民が住みやすいまち
- ・家族の近くで暮らしたい
- ・仕事の種類や内容が重要
- ・公共交通が利用しやすいまち
- ・安全で人を大切にするまち
- ・子どもがたくさんいるまち

子育て世代・高齢者・その他の世代

- ・住みやすいまち
- ・これからも住み続けたい
- ・家族と住みたい
- ・安心して生活できる
- ・買い物や通勤が不便
- ・医療環境が不十分
- ・子育て環境、教育環境のさらなる充実
- ・まちづくりは市民自らが行うべき
- ・身近に自然を感じるまち
- ・地区に住む人への信頼度
- ・次の世代に良い環境を残したい
- ・男女共同参画

- ・出産子育てができる環境整備
- ・保育介護サービスの充実
- ・企業や事業所の理解
- ・子育て世帯の負担軽減
- ・人と交流し孤独を防ぐまち
- ・学び方、制度、教育機会が充実
- ・商業、サービス、観光拠点の活性化
- ・生活の利便性が高いまち
- ・地域資源のブランド化
- ・食、観光産業の強化
- ・地域のコミュニティ力があるまち
- ・見守り、防犯、防災の体制が充実
- ・人のつながりと地域との関係がある

人口ビジョン

合計特殊出生率1.83まで上昇させその後維持

20代～40代の女性人口増を加味し移動均衡を達成

子育ての喜びが見えるまち

子育ての喜びが見えるまち

「子育ての喜び」とは、誰が感じるのか？
子ども、若者、子育て世代、高齢者、その他世代？

「喜びが見える」とは、誰が見えているのか？
市民、市外の人？

- 地域全体が若者の挑戦や子育てを応援している
- 子育ての喜びを分かち合っている（共感している）
- 地域の子どもの成長に生きがいや喜びを感じている
- 地域全体が子育ての喜びを感じている

このようなまちを「子育ての喜びが見えるまち」と呼びます

子育ての喜びが見えるまち

「子育ての喜び」とは、誰が感じるのか？
子ども、若者、子育て世代、高齢者、その他世代？

「喜びが見える」とは、誰が見えているのか？
市民、市外の人？

- 地域全体が若者の挑戦や子育てを応援している
- 子育ての喜びを分かち合っている（共感している）
- 地域の子どもの成長に生きがいや喜びを感じている
- 地域全体が子育ての喜びを感じている

このようなまちを「子育ての喜びが見えるまち」と呼びます

「子育ての喜びが見えるまち」を目指すことで（目指す過程で）

[illegible]

将来像に副題をつけることで、**目指す姿が具体的にになり全世代が享受する内容（メリット）が明確化**

副題

第1章 南あわじ市の将来像 副題について

- 将来像「子育ての喜びが見えるまち」が、**子育て世代だけの支援だけでなく、すべての世代が目指すもの**であるというメッセージを副題に込める。
- 幅広い市民意見を元に、**すべての世代につながる（享受できる政策がある）というイメージが沸く**副題。
- 副題を見て**市民が自分ごとに思える**ようなもの。みんなが**共感できる**もの。



子ども・若者・子育て世代・高齢者・その他の世代

- 市民意見からのキーワード
「すべての世代」、「支え合う」、「つながり」、「活躍」、「見守る」、「幸せ」、「幸福」、「誇り」、「未来」、「生きがい」、「人」、「やさしさ」、「食」、「自然」、「地域資源」、「コミュニティ」、「地域愛」、「活気」、「活力」、「ブランド力」、「循環」、「安心」……
- 副題に入りきらないキーワード、市民の思い、具体的なものは各政策の「めざす姿」などに織り込んでいく。

第1章 南あわじ市の将来像 副題について

<副題案>

- ①すべての世代が互いに支え合い、生きがいを持って活躍できる地域社会
- ②支え合う喜びが力になる すべての人が生きがいを持って活躍できる未来
- ③豊かな食と自然を力に、すべての世代で支え合う人の循環が活力を生む地域社会



人口ビジョンを参照（説明は割愛）

第3章 将来像実現に向けた基本政策

1. 基本政策

将来像である「子育ての喜びが見えるまち」の実現に向けて、本市では様々な分野にわたる政策の柱として「五つの行動」を掲げています。この五つの柱がお互いに連携し支え合うことで、将来像の実現につなげていきます。



第3章 将来像実現に向けた基本政策

1. 超高齢社会の克服

支えられる側から支える側へ。誰もが社会を支え、活躍できる生涯活躍社会の実現を目指します。日本の約20年後を体現している本市が誇る高齢者の高い就業率という「現役力」を最大限に活かし、高齢者の方々が地域において役割を持ち、働く喜びや互いに支え合う力を実感しながら、主体的に社会参加できる環境を整えます。

また、健康寿命の延伸を図るとともに、年齢や性別に関わらず、生涯にわたり、誰もがいきいきと活躍できる地域社会を築き、超高齢社会を乗り越える先駆的なモデル地域となることを目指します。

2. 子育て環境の向上と教育の充実

育児と教育の両面から、まち全体で子育てをサポートします。行政、企業、市民が一体となって、安心して子育てができるまちの実現を目指します。生まれる前から子育て期に至るまで、安心を実感できる切れ目のない支援を提供し、子育てと仕事の両立を応援します。

また、「学ぶ楽しさ日本一」の実現を掲げ、生涯を通じてどんなときでも楽しく学ぶ機会を持ち、心豊かな日々を送れるよう、多くの学びの場を整えることで、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えます。

第3章 将来像実現に向けた基本政策

3. 地域の資源を活かした地元産業の活性化

本市の特色である一次産業と観光を融合させ、新たな付加価値を創出します。食のブランド化と戦略的な情報発信を強化することで、広域観光による賑わいを生み出し人の流れと経済的活力を創出します。さらに、地域内のエネルギーや資源等を有効活用し、環境・経済の両面で持続可能な資源循環システムを形成します。

これらの取り組みにより、若者が誇りを持って働くことができる環境を整備するとともに、持続可能な地域産業と資源の継承を図り、全世代が安心して暮らし続けられる豊かな地域社会の実現を目指します。

4. 安全・安心のまちづくり

災害や犯罪から市民の生命と財産を守り、誰もが安心して生活できる地域社会を実現します。暮らしを支える移動手段と道路や橋梁などのインフラの最適管理を進め、日常生活の安全を確保するとともに、災害に強いまちづくりを進めます。

そして、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、行政と地域の協働による防災市民力の向上を促進し、持続可能で自律した地域社会の形成に取り組みます。

5. 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

まちづくりの主役は市民です。行政は市民の皆さまと積極的に対話を重ねることで、地域の課題や将来像を共有することで、市民主体の地域づくりを支援します。

その実現のため、市役所職員一人ひとりが関連分野の職員と協力し自律的に考え行動する「最強の市役所」を築きます。

市民と行政がパートナーとして協働し、市民が思い描く地域の将来像を共に実現するまちづくりを推進します。

<基本政策間の連携>

「子育ての喜びがみえるまち」の実現に向けた「五つの行動」は、それぞれが独立したものではなく密接に連携し、支え合うことで相乗効果を生み出します。

例えば高齢者の社会参加は子育て世代の負担を軽減し、地域経済を活性化させるとともに、充実した子育て・教育環境がつくられます。充実した子育て・教育環境は本市で子育てをしたいと思う若者の定着を促し、地元産業の持続可能性を高めます。

そして全ての活動は防災・災害対策が整った安全・安心な基盤の上で成り立ち、市民と行政の対話と協働は各政策の円滑な推進と目標達成を可能にし、持続可能で豊かな地域社会を築き上げます。

第4章 基本政策に基づくまちづくり設計図

将来像	基本政策「五つの行動」	大分類	施策番号	基本施策
子育ての喜びが見えるまち 〃 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● 〃	Ⅰ 超高齢化社会の克服	1 健康		
		2 福祉		
	Ⅱ 子育て環境の向上と教育の充実	1 子育て		
		2 教育		
		3 生涯学習・文化・スポーツ		
	Ⅲ 地域の資源を活かした地元産業の活性化	1 農畜水産業		
		2 商工業・地場産業		
		3 観光・交流		
		4 資源循環		
		5 移住定住		
	Ⅳ 安全・安心のまちづくり	1 防災・防犯		
		2 公共交通		
		3 人権		
		4 環境		
	Ⅴ 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり	1 行政手法		
		2 行政運営		

審議会にて決定

7月以降の施策立案時に設定 → 審議会⁴¹で協議

4. その他 第2次総合計画進捗評価

施策進捗評価シートの見方

各政策の柱の「施策」について「取組内容」、「進捗評価」、「実績・評価」、「評価理由」、「今後の課題」を記載。本評価シートをスタート地点に第3次総合計画の基本計画、施策を立案していきます。

政策の柱Ⅰ 超高齢化社会の克服

大分類3 移住定住

施策Ⅰ 移住定住の促進（ふるさと創生課、市民協働課、都市政策課）

施策	取組内容	進捗評価	主な取組実績・成果	評価の理由	今後の課題
1 移住・定住のインセンティブの充実	UJI ターン者へのマイホーム取得や民間賃貸住宅居住に係る費用などの支援により人口減少の抑制を図るとともに、移住後の通勤・通学費用をはじめとする様々な支援により定住化を図ります。	3	マイホーム取得や民間賃貸住宅などの居住に係る支援のほか、移住に係る初期費用の軽減施策により、着実に移住者を取り込むことができた。また、多世代同居・近居支援事業や奨学金等返済支援事業等、ニーズに応じた新規事業を立ち上げることで、定住化を図ることができた。	支援が具体的な住宅取得や居住へのインセンティブとなり、UJIターン者を含む移住者を着実に呼び込めている。また住宅取得だけでなく、多世代同居・近居支援や奨学金返済支援など、生活の多様な側面に応じた施策を展開し、移住者の受入れは進んでいる一方、令和7年度の社会増減人数が基準値を下回っている状況であるため、新たな対策が必要である。	本市が必要とする人材を見極め、これまでの支援策の見直しを行い、引き続き適材適所のインセンティブ付与の充実に努める。また、定住者の流出抑制に向け、現状を分析し、移住施策と連携した総合的かつバランスのとれた施策展開を図っていく。
2 移住希望者へのアプローチ強化	移住希望者が多様な手段で情報を入手できるよう、これまでのパンフレットやHP等に加えPR動画などSNSを活用し、本市の魅力や補助制度などの情報を広く発信します。また、大都市圏での移住相談会に積極的に参加するとともに、移住希望者のニーズにあった相談体制の更なる充実に努めます。	4	パンフレットの配架やHP・SNS掲載に加え、市定住促進協議会による移住者目線でのYouTube動画掲載を継続的に行っている。また、移住相談会では、アクセスの良さなど本市の魅力を発信するとともに、一人ひとりの思いを聞き取り、相談後のフォローを丁寧に行うなどして移住者獲得につながることができた。	パンフレットやHPに加え、SNSやYouTube動画など多様なメディアを活用し、幅広い層への情報発信を実現した。また、移住相談会で移住希望者との直接対話の機会を増やすことで、本市の魅力を具体的に伝えつつ、一人ひとりのニーズや思いを丁寧に聞き取り、個別の課題に対応した相談を実施したことで、移住決定の促進につながっている。	潜在的な移住希望者が多く閲覧するポータルサイトなどの発掘・分析を行い、引き続き効果的なアプローチを実施していく。
3 市民との交流による移住・定住の促進	農業等の本市での暮らしの体験イベントや移住者との交流会を通して、移住後の本市での暮らしぶりをイメージしてもらい、移住に対する不安の解消に努めます。また、学生や市民との連携行事等により、地域の魅力を感じることで「住み続けたい」と思えるような取り組みを促進します。	4	移住体験イベントや、移住者との交流会を毎年実施したことに加え、移住希望者のオーダーメイドツアーを個別に実施するなど、具体的に本市での暮らしを想像していただける取組を実施した。	移住体験イベントを通じて、本市での生活を具体的にイメージできる機会を提供し、また移住者との交流会により、成功事例や体験談を直接聞ける環境を整備し、リアルな声を得ることで安心感を持ち、移住後の定住につながるよう寄与した。	これまでの取り組みを着実に継続することが肝要であると認識している。加えて、漠然と淡路島への移住を検討している方へのアプローチや農業や起業を考えている方など、職種等に特化したイベントも検討する。

4. その他 今後の予定

